

## 府立医大アイバンクが中核アイバンクへ!

今春、京都府立医大附属病院眼科銀行は京都府立医大アイバンクに名称を変更いたしました。一人でも多くの方々にアイバンクに親しみを持っていただきたいという思いによるものです。さて、この京都府立医大アイバンクは府立医大附属病院の中に事務所を持つアイバンクです。角膜移植をサポートするために、アイバンクへの献眼が少しでも増えることを願って、積極的なアイバンク活動を行っています。実際、京都府立医大アイバンクでは、平成23年度より2名のコーディネーター(写真)真)が勤務し、アイバンク活動の充実と献眼活動の啓発を進めています。今回、このアイバンクが、近畿・中国・四国地区ブロックにある16アイバンクをお世話する中核アイバンク

も兼ねることになりました。我が国には54のアイバンクがあり、その中に5つの中核アイバンクがあります。日本で6番目に設立された京都府立医大アイバンクは、かつてその任をおっていた時期もありますので、中核アイバンクへ復帰したといったほうがいいかもしれません。

京都における角膜移植件数は人口比にすると全国でも突出した数であり、非常に高いレベルの角膜治療が行われていることを示す一つの指標ともなっています。このことは、角膜の病気をもつ患者さんが京都に集まってきたことを示しているのかもしれませんが、この京都を中心として、再び、広域の行政範囲を包含した中核アイバンク活動が行われることにより、角膜移植を受けて視力回復する患者さんがさらに増えることを願っています。

この10年の角膜移植の技術的な進歩には目覚ましいものがあり、角膜内皮移植(DSAEK)が全角膜移植のほぼ半分を占めるようになりました。フェムトセカンドレーザーを使った角膜移植も保険適応となり、視機能、安全性の

より高い角膜移植が提供できるようになってきました。このような状況のなかで、アイバンクの役割も変化しつつあり、従来のドナー角膜を保存、斡旋する業務だけでなく、角膜内皮移植片などを準備することが求められるようになってきました。時代の変化に応じた新しいタイプのアイバンクを中核アイバンクとして模索していきたく思っています。

現在のアイバンクをとりまく社会的そして経済的状況は厳しく、我が国の角膜移植の約半分が海外ドナー角膜を用いておこなわれており、国内のみの献眼では、手術の待機時間は1~2年にもおよんでいます。皆様には、献眼の重要性にご理解をいただき、アイバンク活動の輪を社会に広げていただけると有難いです。皆様には、ご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。また、最後になりましたが、ライオンズクラブ国際協会335-C地区を中心としたアイバンク愛の光基金管理会の皆様の、日頃からの多大なるご支援に感謝申し上げます。

(木下 茂)



写真  
左:出口友梨奈  
右:レイクス賀直

## 第12回 Refractive Surgery Update Seminar in Kyoto 2012 印象記

7月21日(土)、ウエスティン都ホテル京都において、Refractive Surgery Update Seminar in Kyoto 2012が開催されました。最近の白内障手術の進歩もあり、角膜屈折矯正手術だけでなく、白内障手術に関連した講演が多数ありました。

第一部(午前)は、「屈折矯正検査 角膜前後面形状の評価」(座長 下村嘉一先生)および「白内障手術 眼内レンズ、水晶体囊逢着術」(座長 真野富也先生)について講演がありました。TMS-5(平岡孝浩先生)では、角膜後面の測定も可能となり白内障手術や屈折矯正手術の手術精度の向上につながる可能性があるとのことでした。Pentacam(根岸一乃先生)や前眼部OCTであるCASIA(淵端 睦先生)など最新機器の多彩な機能について、ハードコンタクトレンズ(森 秀樹先生)の今後の可能性について教えていただきました。眼内レンズの逢着術(竹中 久先生)について、これまで施行されたデータから最近逢着術が増えていることや、最も多い合併症である虹彩捕獲に対する手術方法を解説していただきました。また特殊な逢着(谷口重雄先生)として、逢着カプセルエキスパンダーを用いた手術、強膜内固定(太田俊彦先生)の新しい手術術式と有効性について講演があり

ました。

お昼は稗田 牧先生による「欧米の屈折矯正手術事情」(座長 木下 茂先生)の講演がありました。最近の欧米におけるトピックスのみならず、府立医大での屈折矯正手術と角膜移植手術に対する新しい取り組みや、日本と海外で異なる屈折矯正手術についての常識非常識、術後感染症の経験についての考察など、稗田先生の哲学にもとづいた講演でした。

第二部(午後)は、シンポジウムとして「屈折矯正手術 Update」(座長 稗田先生)がありました。円錐角膜に対する新しい外科治療の一つである角膜クロスリンク(加藤直子先生)のアップデートについて、多焦点眼内レンズのUpdate(荒井宏幸先生)として、新しい多焦点眼内レンズの使用経験と良好な結果について、各種サージカル・ガイダンス(福岡佐和子先生)を使用した最新の眼科顕微鏡下手術の紹介、Phakic IOLの新しい展開(神谷和孝先生)として新しい後房型眼内レンズの紹介、最後にフェムトセカンド白内障手術(木下先生)の現状と今後について、まさに現在の屈折矯正手術について最新のアップデートとなる講演でした。続いて行われた「JSCRSシンポジウム:白内障手術と乱視矯正」(オーガナイザー 宮田和典先生、根岸先生)では、



最も基本となる眼鏡による矯正(湖崎淳先生)について、大変勉強になるお話を聞くことができました。エキシマレーザーによる矯正(神谷先生)では、乱視の大きさだけでなく軸や瞳孔径が視機能に重要な影響を及ぼすことを示していただきました。LRIによる矯正(宮田先生)は、フェムトセカンドレーザーの使用により精度が増すと、今後も白内障同時手術として十分可能性のある手技であるとのことでした。トーリックIOLによる矯正(根岸先生)は、乱視も矯正できる白内障手術として現在最も導入が簡便で、有効であることを解説していただきました。第三部では「症例から考える白内障・屈折矯正手術」(座長 前田直之先生)として、珍しい症例や難症例についての症例検討が行われました。

以上、丸一日大容量のプログラムでした。今年も、全国規模の専門学会に匹敵する内容で、大変勉強になったセミナーでした。

(中井義典)

### 編集 後記

お待たせいたしました。Eye Treat革命第15号をお届けします。

これまでと同様、本号でも、長足の進歩を遂げている眼科の革新的治療や府立医大眼科のアクティビティの情報が満載です。隅々までお楽しみください。編集部では、みなさまのご意見を広く募集しております。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。(編集部)

EYE Treat 革命 編集部(稗田 牧、永井淑子) 京都府立医科大学 眼科 〒602-0841 京都市上京区河原町通広小路上の梶井町465 TEL: 075-251-5578 FAX: 075-251-5663